

*****ここから『電子耕』*****

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第67号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

2001.9.27(木)発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

*****発行部数1382部*****

<キーワード>

農林・園芸を中心として健康・食べ物・図書・人名・庶民の歴史をめぐる情報を提供し、お互いに<読者の声>のメール交換をしましょう。

目次-----

<読者の声>農学徒さん、民谷さん、吉永さん、中原さん、

<近況報告>コメントにかえて

<引っ越し結果報告>苦あれば楽あり

<舌耕のネタ>「戦争には反対」

<農業・図書情報>農文協図書館岩渕文庫紹介

<山崎農業研究所はがき通信>1、「農業・農村と水」研究会9月28日

2、現地研究会予告10月13日から14日茨城県新治村「小町の館」

<読者の声>ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけでは無く、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。-----

<読者の声>

■9/14 農学徒さん：風さんへの意見、

<http://www.nazuna.com/tom/2001/66-20010913.html>

「8/24 「風」さん：8/16 農学徒さん：靖国問題で意見が割れるのは・・・」への回答

農学徒より

先に原田様へ。

先生の真摯な御姿勢に敬服しております。どうか「老体になると短気になり、考える幅も余裕もなく・・・」などと仰らないでください。

「風」氏へ

貴兄のご意見をまとめますと・・・

1. 「靖国問題」は、徴兵された軍人あるいはその遺族もしくは当時の国民に対し、日本国政府が然るべき手当を怠っていることに起因する国内問題である。

2. 日本国首相の靖国神社参拝は、所詮「口先」のことで、当然の手当が行われていない国民を欺く行為であり、参拝以前に日本国政府が然るべき手当を実施し「生命に対するコスト」の支払い意志を示すべきである。

・・・ということでしょうか。

1について

終戦記念日の小泉首相靖国神社参拝予定に対し、猛烈な抗議を唱えたのは如何なる団体か伺いたい。あるいは内外のマスコミが取り上げた「抗議」の主体者は何者か伺いたい。遺族会が抗議したのでしょうか。あるいは日本国国民の正統な代表である国会で参拝反対決議がなされたとでも仰るのでしょうか。

当方の見聞きした範囲、マスコミ（数社の新聞社とテレビ各局）が取り上げた一次的な抗議の主体者は「中国共産党」「大韓民国政府」であり、海外報道機関についても「金大中政権寄り韓国内新聞社およびテレビ局」が積極的に韓国国内抗議行動を取り上げた外は知らないのですが。

また、政治政党として国内野党の多くが抗議していましたが、もしこれが『国民の意思』に添うものあれば、次の選挙でこれら野党が議席を得、国会の意志として日本国首相の靖国神社参拝はなくなるでしょうから、それはそれでいいのではないのでしょうか。

それにしても小泉自民党総裁の首班指名に関わったのに、最後に終戦日参拝に異議を申し入れ、13日に変更させた公明党はよくわからないですね。

2について

「生命に対するコスト」が直接云々されるようになったのは、ベトナム戦争後の米国においてですがまあいいでしょう。しかし、この考えはある面極めて危険です。

先の大戦で帝国陸軍中枢が対米戦を積極的に唱えざるを得なかった理由は何だったのでしょうか。「日清、日露、日中の諸戦闘で流された多くの将兵の血を以て得られた日本国の権益（すなわち日本国民の利益）を捨てることはできない」だったのではないのでしょうか。ここに「生命に対するコスト」意識はなかったとでも仰るのでしょうか。米国がハル・ノートによって要求したのは、日本国が国民の生命というコストを代償に得た大陸における権益を総て放棄しろというものではなかったのでしょうか。

「風」氏、水利権（河川・湖沼の水を使用する権利）というものをご存じか。今日の日本全国を覆う水利権の起源は、遠く数百年前（戦国時代かそれ以前）というものが少なくありません。（都市部の各自治体はその水利権を持たないため、新たに水源を確保する責務を全うするためのダムを造らざるを得ないのです。）

かつてその土地において農業を営む者は、多くの血を流し（合戦に参加した報償として、あるいは直接的に他部落と戦闘し）、必死になって水利権を得、また確保し、現在の法律もこれを保護しているのです。

「風」氏はあなたの「水利権」を守ろうとした「祖先」をお笑いか？「水利権」を守りきれなかった「祖先」を責めてらっしゃるのか？「水利権」を守ろうとして亡くなった「祖先」に手を合わせることを非難されるのか？

あなたは、「水利権」に無頓着、あるいは無神経に過ぎる。あなたは自らの今日（こんにち）の有り様の一端を支えているに違いない「親」を如何にお思いか？その「親」にあなたは如何なる代償をお払いか？もし、膨大な借金をお抱えながら、「親」に十二分な糧をお与えなら、なにも申し上げることはない。私は、住宅ローンを抱えまた子の養育もあり、微力にして手を合わせることはできません。

自発的にせよ、周囲に因果を含まされたにせよ、本望にせよ、嫌々ながらにせよ、国家のために死地に赴いた先人に、その国家の代表が慰霊の意思を示すことに異議を唱える者を私は理解できない。

また、あなたは民主制というものをご理解か？今回、参院選の結果を見る限り、国民はその意思として、終戦記念日における首相靖国神社参拝を否定していないでしょう。

少数意見云々、あるいは国外の・・・と仰るのであれば、過日の米国における惨劇にも「しかるべし」と理解を示されるのか？

「風」氏、如何？

あと「騙された」についてですが、それは米国のプロパガンダでしょうか？また、唯一責めるとしたらそれを自らの免罪符とした「親」でしょうか？「とうちゃん！じいさまに顔向けできるの？」と。

「電子耕」読者の皆さんへ。

長々と、このような言説で、紙面（記憶容量？）を占めることにお詫び申し上げます。遡って頂けるとその理由をご理解いただけるものと存じます。堪忍してください。

●コメント：風さんからのご返事はまた次号に期待しましょう。

■9/14 民谷さん：ご無沙汰しています、

ご無沙汰致しております。

文化座を離れてからも「電子耕」を拝読しておりました。

原田さんの現在のご病気に対する向き合い方には感動させられます。

それも、今までの、原田さんの生き方が支えておられるのでしょうか。

常に前向きに活動される原田さんならではと・・・・・・・・・・

今後も「電子耕」を注目しております。

そして、原田さんの生き方を学びたいと思います。

闘病は大変でしょうが、原田さんらしく打ち克って下さることを願います。

■9/15 吉永さん：31日のメール読みました、

引越し済んでお疲れさまです。毎日新聞人欄には9月1日ののっていました。

コピーして母に渡しました。心配しないでと伝えましたが無理だと思います。

来年人司土叔父の法事には是非帰れるように頑張ってください。

卓巳の結婚式は盛大で賑やかでしたお客は全部で150名。うち身内は両家で

30名。上司や友人の多さにびっくりしました。

その時の写真を後で送ります。

叔父さん無理しないで1日でも長く生きて下さい。

ではまたメールします。ほんとは開き方をよく知りません。

今日は別府にいる娘が開いてくれました。また頑張ります。お大事に。

■9/17 中原さん：HARADA先輩、

メールをいただきホームページを拝読し愕然としました。

桜井さんの事などきめ細かくご心配いただいていたのですが、

ご自身がお辛い事と知り、言葉もありません。

自然治癒力、自己免疫力で医学の力をさらに引き出し、

退治された方も居られます。

CAM netで儀子も お手伝いしていますので

ご指示下さい。

●<近況報告>コメントにかえて

みなさんにご心配かけてすみません。毎日新聞のおかげもあって、メールが増えたり、友人から「心配だがなんと言ってよいやら」と気の毒そうな電話や手紙が多くなった。悪かったな、とも思うが公表に踏み切ったからには、それぞれ、時間をかけてお答しなければならぬと思っています。

それに、なずなコムのIT担当が検索した、

<http://www.asahi.com/life/medic/dou07.html>

の「多発性骨髄腫」ってどんな病気？という記事や

「日本骨髄腫患者の会」

<http://www.myeloma.gr.jp/>

のメーリングリスト、

<http://www.myeloma.gr.jp/maillist.html>

「患者の手引き」

<http://www.myeloma.gr.jp/TebWeb.html>

などの提供があって、早速メーリングリストに加入したら、毎日7通から10通のメールが来始めました。

患者とその家族が会員で3年で300人以上になっているという。毎日病状や治療、副作用の情報交換です。現時点では完全に治癒することができない、一

般にあまり知られていない病気だけに熱心です。私と同じタイプの患者もおられ、参考になることが多いが、ときには残念な悲しいお便りもあります。

でも、皆さん前向きに闘病しておられます。なかには診断後何年も通常の生活を送ることが可能ということに励まされてメールを読んでいます。

<引っ越し結果報告> 苦あれば楽あり

9月4日、東久留米市ひばりが丘団地から、西東京市ひばりが丘2丁目アパートに引っ越しは完了した。42年間に蓄積された家財を半減するのに苦労した。段ボール詰め作業や家具の搬送は業者におまかせで2日間ですんだが、5日から収納するのにまた家内はひと苦労。3週間かかってもまだ20個くらいの段ボールは置き場がないまま食堂の3分の1を塞いでいる。

役所や郵便局、銀行、病院、保健所、免許証などの転居届が10ヶ所あまり、これは私の役目。老眼と片目見えないために細かい説明が読めない。老人の仕事ではないと自覚。夫婦とも彼岸の墓参りに行くのに電車・バスで居眠り、危うく乗り過ごす「疲れたんだね」と慰め合う。

悪いことばかりではない。家族4人が朝晩、顔を合わせて食事ができるのは年に2、3回だったが、今では週4日くらい。何でも話合える。

私にとって生き甲斐が増えた。1階の南側に空き地があり、花や野菜を育てても良いという。半年も空き家になっていたので草ぼうぼうだったが、ご近所の話では先に住んでいたTさんは農業に熱心で、土は肥えているという。

鍬や支柱の遺し物があり、ニラが3メートル横一列に植えられて残っていた。彼岸近くなったらマンジュシャゲの花が1本、サフランが2株、ニラも花が咲き、アゲハ蝶もトンボもやってきて歓迎してくれた。

草を取り、落ち葉を堆肥にした。台風のもたらした雨の翌日、カラシナ、シユンギク、ホウレンソウの種蒔きをした。すぐ芽を出しはじめ、毎朝、それを眺める気持ちはなんとも言えない。ベランダの幅だけ横1列に水仙の球根を埋めたから正月ころは日本水仙が咲いてくれるだろう。

近藤康男先生のように、百歳過ぎても野菜を育てる楽しみがよくわかる。明

日は農文協図書館で近藤先生に報告しなくては（9月24日）。

<舌耕のネタ>「戦争には反対」

「9月11日のテロ攻撃に対応し、すべての形態のテロと戦うため、必要な全手段をとる用意があることを表明する」12日、安保理のテロ非難決議<要旨>の結論である。これにアメリカは武力容認と解釈。米本国が直接、攻撃の対象になったため自衛権を行使して反撃するという。

毎日新聞24日3面には「学者はこう見る」と元国連主任広報官の吉田康彦教授は「米国は国際法を無視し、政治判断と軍事行動を優先させている。（中略）日本政府は感情的になっている米国の行動に追随してはいけない。と話している。

私は11日の米国の同時多発テロは、許し難い武力攻撃であると非難に賛成するが、報復のためのアフガニスタン攻撃には賛成できない。私は東洋平和のためと称して日本が中国を侵略した戦争時代に生きてきたものとして戦争に反対である。さらにアメリカが自由主義を守るためにベトナム戦争をして敗北したことを知っている。再び戦争をしないように残りの生涯をかけて、戦争反対と叫ぶ。日本はそれに荷担してはならない。

<農業・図書情報>農文協図書館岩渕文庫紹介

<閉架式個人文庫-7>岩渕直助文庫

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/078iwabuchibunko.html>

岩渕直助（いわぶち なおすけ）1907～1989

略歴：1907（明治40）年、岩手県西磐井郡涌津村（現花泉町）に生まれ、日本大学法文学部英文科卒業。1933年、東京市市役所から日本石炭（株）を経て軽金属統制会で終戦。

1946年、農文協に入り、47年『農村文化』の編集発行人になる。49年常任理事。経営の中心に雑誌の直接販売方式をすえ、率先して農村・農家に普及する。60年専務理事となり、雑誌を『現代農業』と改題し、飛躍的増部を実現した。63年、農村文化運動の理論化のため「文化財論」「普及論」を発表、職員研修を始める。以来、農文協の読書運動・文化財制作を隆盛に導き、

ことに「日本農書全集」「日本の食生活全集」などの大型全集を企画・刊行し、数々の出版文化賞を受賞した。84年農文協副会長。1989年82歳で没。

主な著書：人間選書『生活の主張』（農文協1978）

『文化運動基本文献集』全2巻（農文協1985）

参考文献：『農山漁村文化協会三十五年史』（農文協1976）

近藤康男編著『農文協五十年史』（農文協1990）

原田勉著『評伝岩渕直助-農文協の五十年史-』（農文協1995）

スライド・ビデオ『岩渕副会長を偲ぶ』（農文協1990）

『岩渕さんを偲ぶ』（農文協共済組合編・発行1992）

当図書館ではNO. 26-6に岩渕直助が愛読した『日本思想大系』（岩波書店）ほか蔵書166点を所蔵している。

<岩渕文庫蔵書全目録>

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/078iwabuchibunko2.html>

農文協図書館で閲覧のみ可能

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/>

<山崎農業研究所はがき通信>

1、「農業・農村と水」研究会9月28日（金）13：30～17：00

場所：太陽コンサルタンツ（株）3階会議室

○「森林と流域の水循環」塚本良則氏（日本大学生物資源科学部教授）

日本大学生物資源科学部

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/>

森林資源科学科

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/webadmin/DFSR.html>

森林環境保全研究室

http://www.brs.nihon-u.ac.jp/~hozen/top_page.htm

塚本良則教授

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/~hozen/tukamoto.htm>

○「アジアの農業農村と水-欧米との違い-」真勢徹（秋田県立大学短期大学

教授・I W M I 理事)

<http://www.pref.akita.jp/fpd/nogyonoson/mase-ronbun.htm>

今までの4回の懇談会の提言をふくめ、来年の夏ごろを目途に単行本として刊行に努力することになった。

2、現地研究会予告：10月13日(土)～14日(日)1泊2日

場 所：茨城県新治村

<http://www.pref.ibaraki.jp/cities/nihari.htm>

「小町の館」

<http://www.top.or.jp/~niihari/komati/komati.htm#komati01>

テーマ：「地産地消の方法と手順」

内 容：第27回会員総会で話題提供をいただいた茨城県新治村をたずね、みそ、そば、うどんの生産・加工・流通と消費者との交流の実態を農家のみなさんや関係者からお聞きし、その方法と手順を検討します。

申し込み：参加希望者は10月5日までに事務局へ。詳しい資料を送ります。

電話：03-3357-5916 FAX03-3357-3660

〒160-0004 新宿区四谷3-5 山崎農業研究所 井上、小泉

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_frame.htm

— P R —

■■■■■ 劇団文化座創立60周年記念第1弾
■■■■□ 『夢たち』
■■□□□ 作＝三好十郎／演出＝越光照文
■□□□□ 公演期間 2001年10月11日～20日
□□□□□ 新宿・紀伊國屋ホール チケット発売中

<http://bunkaza.com/>

----- P R -----

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/10.html>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」 第67号

バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2001.9.27 (木) 発行

東京・ひばりヶ丘 原田 勉

mailto:tom@nazuna.com

***** 発行部数 1382 部 ***** ここまで『電子耕』*****

.